

< 新規受託項目のお知らせ >

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。
このたび、新たに下記項目の検査受託を開始することになりました。
取り急ぎご案内させていただきますので、ご利用の程よろしくご
申し上げます。

敬具

記

《実施日》

2021年 10月18日（月）受付分より

《新規受託項目》

項目名	IgE (RAST) (特異的シングルアレルゲン) Asp f 1 (アсп エフ ワン)
項目コード	8087
検体/保存	血清 0.3 mL / 冷蔵
容器	容器番号 1 (生化学用採血管)
検査方法	FEIA法
基準値	0.35未満 (U _A /mL)
所要日数	2~4日
検査機関	京浜予防医学研究所
検査実施料	110点
判断料	144点 (免疫学的検査判断料)
診療報酬区分	「D015」血漿蛋白免疫学的検査「13」特異的IgE半定量・定量
備考	特異的IgE半定量・定量検査は、特異抗原の種類ごとに所定点数を算定する。 ただし、患者から1回に採取した血液を用いて検査を行った場合は、1430点を 限度として算定する。

※検査ご依頼の際は、No.2総合検査依頼書(アレルギー)の指示事項欄に「Asp f 1」
とご記入ください。

※臨床的意義につきましては、裏面をご参照ください。

《臨床的意義》

Asp f 1（アスパ エフ ワン）はコウジカビの一種であるアスペルギルス・フミガーツス由来のアレルゲンコンポーネントであり、血清中の特異的IgEを測定することでアレルギー性気管支肺アスペルギルス症（以下、ABPA）の診断を補助します。

真菌、いわゆるカビは日常身の回りに普遍的に存在する生物ですが、ヒトに対して感染症、アレルギー、毒性反応など様々な健康障害の原因となることがあります¹⁾。アスペルギルス属は他の環境真菌より比較的乾燥に強く胞子の直径が5 μ m以下と小さく容易に末梢気道に到達すること²⁾、また特にアスペルギルス・フミガーツスは高温性であり、他の真菌と異なり35度以上でも発育しやすい²⁾という特徴があります。このため、気道上皮傷害のある患者、特に喘息患者の下気道において腐生（持続生息）しやすく、アレルギー性気管支肺真菌症（以下、ABPM）の原因になりやすいといわれています²⁾。ABPMのうちアスペルギルス属を原因とするものをABPAと呼び、アスペルギルス・フミガーツスは、アスペルギルス属の中のABPAの原因真菌として最も多い³⁾と報告されています。

Asp f 1はアスペルギルス・フミガーツスの胞子中には存在せず、発芽後1日～3日目ころをピークとして分泌されるタンパク質である⁴⁾ため、Asp f 1への感作の確認は、ABPAが疑われる患者におけるアスペルギルスの気道内腐生を示唆する⁵⁾ことから適切な治療判断に有用です。診断までの期間を短縮することで、早期に疾患のフォローアップが可能となり、QOLの向上と予後の改善に貢献します。

●参考文献

- 1) 福富友馬 アレルギー 2016; 65: 113-117
- 2) 谷口正実、福富友馬 監修 吸入性アレルゲンの同定と対策 メディカルレビュー社
- 3) 日本アレルギー学会 日本呼吸器学会監修「アレルギー性気管支肺真菌症」研究班 アレルギー性気管支肺真菌症の診療の手引き 医学書院 2019
- 4) Arruda L. K. et al. The Journal of Immunology 1992; 149: 3354-3359
- 5) Sporik RB. et al. Clinical Experimental Allergy 1993; 23: 326-331